

主 題：主イエスの祈り 3

聖書箇所：ヨハネの福音書 17章1－19節

私たちは主イエス・キリストの祈りを学んで来ています。

先ず、1－5節で主がご自身のために、ご自身に関して祈られたことを見ました。イエスはどのようなことを望みどのように生きたのか？思い出してみてください。イエスが望んだことは父なる神の栄光を現わすことだけです。いつもみこころに忠実に生きたのです。だから、彼はいつも父なる神の栄光を現わしたのです。私達も神の栄光を現わしたいとするなら簡単です、神のみこころに従えばいいのです。二つ目に、6節から学びを始めました。弟子たちに関する祈り、その場にいた弟子たちに対して、彼らがしっかり聞けるようにイエスはこのような祈りをされたのです。弟子とされたことがどんなにすばらしいことなのか、救われたことがどんなにすばらしいことなのか、私達はどのような祝福をいただいているのか、この祈りは私達にそのことを教えてくれています。私達は罪から守られています（11節）。この神の御手によって永遠に守られています（12節）。そして、私たちの心がいつもどんな時にも主の喜びで満たされ続けるために、主は祈ってくださっているのです。私達が思う以上に、神のご配慮は完全です。その神の力によって私達は守られているのです。すばらしい祝福を神は私達に与えてくださったし、今も与え続けてくださっています。この世がいう幸せと神が教えてくださる幸せとは全く違うということ私達は見ました。この世の幸せは状況や出来事によって左右されるものです。なぜなら、この「幸せ」ということばには「チャンス、運、偶然の出来事」という意味が含まれているからです。自分の思い通りに物事が進んでいるとき、自分の願い事がかなえられているときは幸せに思い感じるのです。ところが、そうでないとき私達は不幸せに感じます。それがこの世のいう幸せです。しかし、神がくださる幸せ、喜びはそれらと全く異なるものです。なぜなら、それは神がもたらしてくださるものだからです。神の幸せは常に私達にとって最善を与えます。だから、私達は満ち足りるのです。本当の幸せを与えることができる父なる神から与えられたものだから、それをいただいた者は本当に幸せを経験するのです。

数日前、新聞に「平成19年度版自殺対策白書」が載っていました。私たちのこの国における自殺者の数は平成10年に前年より約8500人急増して以来、9年連続して3万人を越えている。その7割が男性で特に急増した大半の部分を45歳から64歳までの中高年男性が占めている。私達はそれがよく分かります。私たちの周りではこの瞬間にも多くの人々がいのちを絶っているのです。なぜ、こんなに物質的に豊かになったのに、こんなに物が溢れているのに、なぜ、私たちの国は世界の中でも自殺者が多いのでしょうか？私達はこの世界にメッセージを発信しなければならないのです。日本を見習え、日本に追いつけ追い越せということで、今、一生懸命仕事に励んでいる人たちが世界中にいます。私達は彼らに教えなければいけません、物には幸せはないと。私達がどれほどこの世の人々が欲しているものを手に入れたとしても、物は幸せをもたらさない、そのメッセージを私達は発しなければならないのです。この世の人々が考える幸せ、例えば、人々が羨むもの、大きな土地・家、人々が憧れるもの、名誉や地位、仕事、学歴など、そのようなものを私達が持っていなくとも、彼らがどんなに頑張っても得ることのできない本当の喜びというもの、主だけが与えることのできる幸いを私達クリスチャンは得たのです。それが私たちのメッセージではないですか？それが私達が人々に語り続けて行かなければいけないメッセージではないですか？このキリストにのみ本当の幸せがあると。私達は救われた者として、このようなすばらしい祝福をいただいた者として語らなければいけないメッセージがあるのです。クリスチャンである皆さん、私達はどんなに大きな祝福をいただいているのかを覚えなければいけません。その祝福を私達はどれほど喜ぶことができるのか、感謝することができるのか、私達はそのことを余りにも忘れ過ぎています。この祈りは私達が神からいただいた祝福を教えてください。今日、私達は四つ目のこの「主イエスの祈り」の内容を見て行きます。

(4) 敵からの守り 14－15節

ヨハネ17：14－17「わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。：15 彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いいたします。：16 わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。」、「悪い者から守ってくださるよう」とあります。ヨハネはその手紙Ⅰヨハネ5：18でこのように教えてくれます。「神によって生まれた者はだれも罪の中に生きないことを、私達は知っています。神から生まれた方が彼を守ってくださるので、悪い者は彼に触れることができないのです。」、救われた人は今までと同じように習慣的に罪の中を生きることができない、なぜなら、

生まれ変わったからと言います。そして、生まれ変わった人には神の御手がありますよ、神が守ってくれますよ、ですから、「**悪い者は彼に触れることができない**」、サタンは彼に対して何もすることができない、あなたに対して何もできないとヨハネは教えるのです。信仰の勇者たちを見たとき、それが旧約の勇者であろうと新約の勇者であろうと、皆、大なり小なりサタンの様々な攻撃を経験してきました。サタンは現実存在します。今現在も働いています。架空の存在ではありません。彼は一生懸命自分のわざを為そうとしているのです。イエスが弟子たちにこのように祈りなさいと教えられた「**主の祈り**」とされているもの、その中でこのようなくだりがあります。「**私たちが試みに会わせないで、悪からお救いください。**」(マタイ6:13)、この「**悪**」は実はこの形容詞の性が男性なのか女性なのか中性なのかよく分からないのです。私たちが今見ている新改訳聖書では「**悪**」ということで中性にしています。それならこの「**悪**」は「**悪いこと**」です。しかし、これを男性形容詞とするなら「**悪い者**」となります。だから、この箇所の欄外の注には「**あるいは『悪い方』**」と書かれています。そして、これを男性形容詞で見ると、悪い方、すなわち、サタンです。ですから、この祈りの中で言われていることは「**サタンから救ってください**」ということです。それほどサタンは様々な働きを為すのです。サタンは国のリーダーたちに働きます。今、この世界中で非常に悪の力が働いていると思うようなリーダーが存在しています。もちろん、これは神の許可のもとにです。そのようなリーダーたちの背後にある力がサタンです。また、同時に、サタンはまだイエスを信じていない人のうちにも働きます。イエスを信じないように、このすばらしい救いを理解しないように、この救いを受け入れることがないようにと邪魔するのです。なぜなら、人が救われて永遠のいのちに至ることをサタンは望まないからです。ですから、それが起こらないように阻止します。福音のメッセージを聞いてもそれが自分の必要だと思わないように妨げるのです。彼らの目を閉じさせてこのすばらしさを見ないように邪魔するのです。

これから見て行きたいのは、クリスチャンであるあなたに対するサタンの働きです。先ほども言ったように、サタンは信仰の勇者たちの中に働いて来ました。ヨブの生涯に影響を与え、ダビデにも、そして、パウロもペテロも様々な攻撃を経験しています。イエスがペテロに対して言われたことを覚えておられますか？ルカ22:31「**シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。**」、それに対してペテロは「**主よ。ごいっしょになら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。**」(22:33)と答えましたが、その後イエスはこう言われました。「**ペテロ。あなたに言いますが、きょう鶏が鳴くまでに、あなたは三度、わたしを知らないと言います。**」と。「**麦のようにふるいにかける**」、脱穀するために懸命にふるうのです。つまり、大変厳しい迫害が訪れるということを行っているのです。しかも、これはペテロにだけ言われたことではありません。「**サタンが、あなたがたを**」と、つまり、弟子たちに同じように様々な厳しい迫害が訪れるということを預言しているのです。また、イエスはペテロの弱さもよくご存じです。ですから、このように言われました。22:32「**わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。**」と。感謝です。イエスは私たちの弱さを分かち合われるのです。ペテロがここで失敗することをイエスはご存じでした。そして、そこには赦しがあるのです。「**だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。**」とイエスはペテロに言われました。このような経験を実際に味わったペテロだから、ペテロがIペテロ5:8でこのように言ったことが納得できます。「**身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししののように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。**」と、イメージが浮かびます。お腹をすかせたライオンが獲物を捜している様子です。そのようにしてサタンは獲物を狙っている、クリスチャンを弱らせようとする、クリスチャンを惑わせようとする、クリスチャンが罪に陥るよう誘惑すると。ペテロはそれを経験したのです。こういう事実をイエスはご存じだからイエスは弟子たちのために祈ったのです。

◎サタンの働き

①**主の働きを邪魔する**：パウロはテサロニケにもう一度行こうとしましたが、それが妨げられました。そのことがIテサロニケ2:18に記されています。「**それで私たちは、あなたがたのところに行こうとしました。このパウロは一度ならず二度までも心を決めたのです。しかし、サタンが私たちを妨げました。**」と、パウロは行こうとしたけれど行けなかった、サタンが妨害したと言うのです。何が原因だったのか私たちには分かりません。詳しく書いていないからです。しかし、この手紙をもらったテサロニケのクリスチャンたちにはよく分かったようです。私たちもみことばを見るとそのヒントを窺い知ることができます。使徒の働き17章を見たとき、ねたみに駆られたユダヤ人たちが町のならず者をかり集めて暴動を起こしてヤソンという人に家に押しかけて行きます。そのやりとりが記されているのですが、最後の9節に「**彼らは、ヤソンとそのほかの者たちから保証金を取ったうえで釈放した。**」とあり、このようなことがあってパウロたちが行けなかったかもしれません。しかし、いずれにせよ、サタンはパウロがもう一度テサロニケに戻ることを妨げたのです。このようなことをサタンはするのです。

②クリスチャンを告発、中傷する：このサタンという名前、ヘブル語でもサタンですが、「告発者、敵対者、敵」という意味をもつことばです。その通りのことをサタンはしているのです。黙示録12：10を見ると「**そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現われた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。」**」と記されています。想像してみてください。サタンは日夜クリスチャンたちを告発するのです。神の御前でクリスチャンたちを訴えているのです。サタンはクリスチャンたちが罪を犯すように誘惑して行きます。もちろん、その最終的な選択は私たち一人ひとりがするのですが、もし、私たちが罪を犯すならサタンは私たちに神に訴えるのです。そこで私たちは考えます。彼が告発するというのは、私たちがそのような誘惑に負けて罪を犯すからです。もちろん、私たちのうちに原因があるのですが、私たちが罪を犯すからサタンは訴えるのです。サタンは見事に私たちにだまそうと様々な誘惑をもたらします。というのは、サタンは主に逆らうことを願っているからです。彼の望みは真の神に逆らい続けることです。ですから、彼は私たちがこの神に逆らうようにと誘惑します。父なる神のみわざがなされないようにと妨げるのです。みこころが行なわれないように働きを為すのです。では、どのような誘惑をするのかをこれから見て行きましょう。

◎サタンはどのように誘惑するのか

①偽りへと誘惑する：初代教会が誕生しました。すばらしい教会で神の祝福を受けていました。ところが、5章になるとその教会が経験した最初の罪が記されています。アナニヤとサツピラのことです。「**ところが、アナニヤという人は、妻のサツピラとともにその持ち物売り、：2 妻も承知のうえで、その代金の一部を残しておき、ある部分を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。**」（5：1－2）、問題は代金の全部ではなかったのにあたかも全部であるかのように偽ったことです。それが罪でした。その二人はその瞬間にその場で息絶えるのです。皆さん、私たちが覚えなければいけないことは神はこれほどに「うそ」を憎んでおられるということです。私たちが覚えなければいけないことは私たちがなぜ今生きているかです。私たちの国は「うそ」をそれほど悪いことだとしていません。「うそも方便」と言います。クリスチャンである私たちが同じように考えて多少の「うそ」は神は見逃してくれるから大丈夫とっていないかどうかです。私たちが覚えなければいけないこと、アナニヤとサツピラもクリスチャンだったでしょう、しかし、この罪に対して神がこのような厳しいさばきを下されたというのは、神はうそを憎んでおられるということです。あなたはどこかで多少のうそは構わないと自分のうそを許していませんか？パウロはエペソ4：25－27でこのように言っています。「**ですから、あなたがたは偽りを捨て、おのおの隣人に対して真実を語りなさい。私たちはからだの一部分として互いにそれぞれのものだからです。：26 怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。：27 悪魔に機会を与えないようにしなさい。**」と。真実を語りなさい、うそを言うてはいけないと言うのです。なぜなら、そのことによって悪魔に機会を与えてしまうからです。サタンは見事に私たちのうちに働いて多少のうそは構わないと言いますが、神はNOと言われます。みことばははっきりそのことを禁じています。ですから、サタンの私たちに對する誘惑の一つは、実際にこの初代教会で起こったように「うそ、いつわり」に対する誘惑です。

②不道徳へと誘惑する：これはもう皆さんご存じです。悲しいことに様々な不道徳への誘惑によってそれに負けてしまう人々がたくさんいます。私たちは何が神の前に正しいことなのか、そのことをしっかり見極めた上で正しいことをして行かなければいけません。今、私たちの周りには私たちにそのような誘惑に引っ張り込むようなものがたくさんあります。新聞を見てもテレビを見てもラジオを聴いても雑誌を見ても、インターネットでも、そのようなものが溢れています。サタンは言います。いいではないか、皆そうしているし、だれも見えていないし、神にお詫びすれば済む…と。不道徳への誘惑は私たちも経験しているはずです。

③靈的うつへと誘惑する：いろいろな苦しみを経験することによって落ち込んでしまうのです。そのような経験はありませんか？サタンはそういうことをしようとします。Ⅱコリント12：7「**また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。**」、恐らくパウロは肉体的に何かのとげ、苦しみが与えられたのでしょう。ある人は病だと言いますがよく分かりません。しかし、パウロにとっては非常な重荷だったのでしょう。悩みだったかもしれません。そういうものが彼に与えられていたと言うのです。10節を見てください。「**ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。**」と、彼の生活がよく分かります。彼には多くの苦痛、迫害、困難、侮辱されることがあったのです。11章でもそのことを教えています。死に直面したこともしばしばあった、むちで打たれた、こんな様々な苦しいことを私は経験してきたと言います。彼はその中で、たとえ落ち込んだとしても仕方ないパウロ、こんなに次々と問題が来るのだから…と皆は慰めてくれたかもしれません。私たちもいろいろな問題を経験しその問題の中

でもがいているときは光が全く見えなくなっています。そうすると、苦しくなって段々信仰が弱って行きます。そのようなことを経験された方はおられることでしょう。だめだ、もう絶望だ、この苦しみからはどうすることもできないと。パウロはいろいろな苦しみを経験しましたが、その中であって彼は落ち込んでいたのでしょうか？肉体的な苦しみを経験したとき彼は「私を打つための、サタンの使い」と言っています。しかし、彼は「私が高ぶることのないように」と、10節でも「私が弱いときにこそ、私は強いからです」と言います。つまり、パウロは苦しみの中にあっても見るべきところを見ていたのです。私は弱いけれど私の神は強い、私はその方に期待を置こうと。神に期待を置いた信仰者は強いのです。でも、自分の知恵や力に信頼を置いている信仰者は弱いのです。私たちの信仰の土台は主イエス・キリスト、このみことばなのです。ですから、どのようなことが起こっても、そして、そのことが私たちの心のうちにいろいろな思いをもたらします。神さま、私を忘れたのですか？なぜ、自分ばかりこんなに…と。でも、そのときにクリスチャンはその状況を見てそのように心騒ぐような状態にあっても、その背後におられる主権者を見て、主よ、私はあなたを信頼します、なぜなら、あなたは絶対に過ちを犯すことがないからです、私はあなたを信じますと、そのときに私たちは落ち込むことがないのです。その中で私たちは感謝できるのです。皆さん、神はあなたの弱さを知った上であなたがいつも喜べるように、すべてのことに感謝できるように必要なものを全部備えてくださったのです。私たちがすべきことはその全知全能な方を見上げることです。初めに言ったように、サタンのすべての誘惑も神の許可のもとに為されていますから、私たちは神を信じることはできるはずで、その方が良しとされたのなら、そこには素晴らしい計画があると。パウロは霊的うつにならなかったのです。大変な状況を通っていても、大変な問題を抱えていても。なぜなら、彼は見るべきところをしっかりと見、この神に信頼を置き続けたからです。でも、サタンは信仰者が落ち込むように、信仰が弱るように働くのです。あなたが神を信頼することを止めてしまうようにと。でも、パウロにはそれは効きませんでした。彼は見事に勝利したのです。そして、その勝利は私たちにも可能なのです。

④不従順へと誘惑する：最初に見たようにサタンは神に逆らうものです。自分が逆らうだけでなくすべての人に影響を与えて皆が神に逆らうようにとするのです。そして、イエスを信じて罪の赦しをいただいた私たちクリスチャンに対して、私たちが神のみこころに従って行かないようにと働くのです。例えば、神は私たちに「兄弟姉妹たち、互いに愛し合いなさい」という命令を与えられました。なぜ、私たちは愛し合うのでしょうか？みことばは教えています。ヨハネ13：35「もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」つまり、クリスチャンである私たちが愛し合っているなら、イエスを知らない人たちが私たちがクリスチャンであることを知りすばらしい証がなされるというのです。Iヨハネ4：12には「いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。」とあり、クリスチャンが互いに愛し合っているなら、そのうちに神を見ると言っているのです。この世の中のだれもイエスを見たことがないけれど、私たちが愛し合っているなら、神のみこころに従っているなら、私たちのうちにその神を見るというのです。私たちが愛し合っているのでしょうか？様々な問題がないのでしょうか？どうしても私はあの人が好きになれない、これはどうすることもできないと、悲しいことにそのように間違った選択をしている人、神はあなたを用いることはできません。これは神の命令であり、私たちが神によって愛されていることをしっかりと覚えるとき、その神の愛が人を愛する者へと私たちを変えて行ってくれるのです。キリストの愛をしっかりと覚えることです。だから、愛し合いなさいという命令に私たちが本当に従順であるかどうかです。

また、赦し合いなさいと言われます。「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」(エペソ4：32)、コロサイ3：13「互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。」と教えられています。あなたがたは赦されたのでしょうか、だから、赦し合って行きなさいと。私たちがこの神の命令に従っているのでしょうか？あなたは人の罪を赦すことができますか？愛することも難しいけれど赦すことも難しいです。これだけはどうしても赦すことができないと、そのようなことはありませんか。私たちがそのように神のみこころに逆らっていることをどこかで認めてそれを正当化するのは。もう一度、みことばを見てください。それが神のみこころなのです。もし、私たちがそのことを求めるなら、望むなら、神はそのように助けてくださる、でも、私たちが「例外がある」と言います。あの人だけは、このことだけは…と。そのようにしてみことばに従って行かないようにとサタンは私たちに誘惑して行きます。何度も言いますが、その最終的な選択は私たちがするのです。誘惑されて、こんなケースがあっても仕方ない、赦せない人がいても仕方ない、悪口を言っても仕方ない、あの人が悪いのだからと、しかし、みことばはそれは罪だと教えます。

救われた私たち、愛することは難しい、赦すことも難しい、また、神はこのように言われました。み

こころに従いなさいと。ローマ12：2「…いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、」と、このようなことをしっかり考えなさい、いったい何が神の前に正しいことなのか、神のみこころは何かを考えてそれを選択しなさいと言うのです。ところが、私たちはいつの間にか、みことばに従って考えるよりも自分勝手な考えによって歩み始めるのです。例えば、私たちが信仰者として生きて行くとき、これだけの働きをしているから私はきっと神に祝されている、熱心だったらそれでいいのだということがないでしょうか？ローマ10：2には「私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしします。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。」とあります。つまり、これだけ熱心だから神はきっと喜んでくださると思っけていても、その熱心さが真理、みことばに従っていないければ空しいというのです。私たちもこれまでいろいろな所で人からいろいろなことを聞いてきた、このように生きるべきだと、それに感動してそのようにしましうと、しかし、それは聖書が教えていることかどうか、私たちは試したでしょうか？どんなに私たちを感動させるような話があつてそれに従って行こうとしても、それが聖書に基いていることかどうか私たちは探ることが必要です。神が言われていることは自分勝手な考えで歩んではいけないということです。神のみこころに従うということは、神のおことばに従って行くことです。私たちはそれに照らし合わさなければいけません。ですから、いろいろな形で私たちがみこころに従って行かないように、神に対して不従順であるように、神の教えに逆らつて行くようにと誘惑があるのです。

このように個人的に私たちはいろいろな誘惑を経験するのですが、個人的ではなく、教会という組織の中でもそのように神のみこころに従って行かないようにとする誘惑があるのです。マタイ13章でイエスがたとえを話された中に毒麦のたとえがあります。13：24から「天の御国は、こういう人にたとえることができます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。：25ところが、人々の眠っている間に、彼の敵が来て麦の中に毒麦を蒔いて行った。」、その説明をイエスはしてくださるのですが、13：37-39「イエスは答えてこう言われた。「良い種を蒔く者は人の子です。：38畑はこの世界のことで、良い種とは御国の子どもたち、毒麦とは悪い者の子どもたちのことです。：39毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫とはこの世の終わりのことです。そして、刈り手とは御使いたちのことです。」、イエスが警告されたのは教会の中に良い種とともに悪い種が蒔かれる、サタンによって蒔かれた悪い種は教会の中の真理を混同させて行くのです。人々にいったい何が真理かを分からなくさせるのです。教会の中に一致ではなく分裂や分派、仲間割れをもたらそうとするのです。なぜなら、教会は神が神の栄光のために一致して歩むようにと計画されたところですから。神はそうのように望んでおられます。ところが、そのような悪い種は神のみこころを妨げて、一致、神の栄光ではなく、問題をもたらすような働きを教会の中に起こすのです。だから、そのような働きをする者に対して非常に厳しいことばが記されています。「分派を起こす者は、一、二度戒めてから、除名しなさい。：11このような人は、あなたも知っているとおりに、墮落しており、自分で悪いと知りながら罪を犯しているのです。」(テトス3：10-11)、ですから、イエスは教えてくださったのです。教会の中に毒麦が蒔かれる、いろいろな問題が生じると。

さて、残りの時間に見てみたい箇所があります。Iテサロニケ5章に教会の中における各人の責任が記されています。12節に「兄弟たちよ。…」とありますが、これは、これから記す命令がある特定の人にだけ与えるものではなく、クリスチャン全員に、その教会の一人ひとりに与えるものであるということを示しています。12-13節を見ると、教会のリーダーたちとの関係が教えられています。「兄弟たちよ。あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主にあつてあなたがたを指導し、訓戒している人々を認めなさい。：13その務めのゆえに、愛をもって深い尊敬を払いなさい。お互いの間に平和を保ちなさい。」、このような関係を築いて行きなさいと言うのです。それが教会の中で信者であるあなたが求めて行くことであると言います。そして、すべての人に対する教えが14-15節にあります。「兄弟たち。あなたがたに勧告します。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。：15だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行なうよう務めなさい。」、「気ままな者を戒め」と、つまり、みことばの教えから外れている兄弟たちを戒めなさいということです。先ほど見ました。毒麦が蒔かれる、教会の中に間違った教えが入つて教会が混乱して行く。ですから、そのように教会の中に間違った教えを持ち込む人を戒めなさい、あなたは間違っているとはっきり言いなさいと言うのです。それは教会員一人ひとりの責任であるとみことばは教えているのです。それだけではありません。「励ましなさい」とそのような間違った教えによって動揺している人々、彼らを助けて行きなさい、信仰的に弱っている人たちを励まして行きなさいと言います。そして、そのような働きを為すために私たちは「寛容」でなければいけない、忍耐がいるからです。すぐに感情的にならないで忍耐をもって助けて行きなさいと言います。そして、「善を行ない」なさい、心から、それがクリスチャンであろうと未信者であつてもあなたは善を行なつて行きなさい、特に、あなたに対して好意的でない人たちに対しても善を行なつて行きなさい、そのようにして教会が一つになつて

行くように、このことをあなたが実践しなさいと言います。

次に、個人に関することが16-18節に出て来ます。「いつも喜んでいなさい。:17 絶えず祈りなさい。:18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」、よく皆さんがご存じのところですか。なぜ、このみことばがここにあるのでしょうか？今見て来たように、教会の中であってあなたが正しい働きをして行くために、正しい行ないをするためにはあなたの心が正しくなければならぬからです。だから、パウロはいつも喜んでいようと云ったのです。イエスが与えてくださる喜びをもって生きるように、「絶えず祈りなさい」とはいつも主に信頼を置き続けて行きなさいということです。そして、「すべての事について、感謝しなさい」と。このことを教えた後、最後に、礼拝における責任があります。19-23節「御霊を消してはなりません。:20 預言をないがしろにしてはいけません。:21 すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。:22 悪はどんな悪でも避けなさい。:23 平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだは完全に守られますように。」、「御霊を消してはなりません。」＝聖霊が働くとき個人も教会も変えられる、その働きを妨げてはいけぬと言います。二つ目に「預言をないがしろにしてはいけません」というのは、この初代教会においてはまだみことばが完成していませんから、人々は神の命令や神のみこころを語りました。そのようなメッセージ、それが語られたものであっても書かれたものであっても、神のメッセージを軽んじてはならないということです。だから、次にこのようにあるのです。「すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。」と、つまり、私たちの責任は語られているメッセージが本当に神のメッセージかどうかを吟味することです。いろいろな間違った教えが入ってくるから、本当に聖書的であるのかどうか、そのことを私たちがしっかり吟味しなければいけないのです。そして、最後に「悪を避けなさい」とあります。悪、すなわち、罪は個人を、そして、教会を弱めるからです。

今見たように、みことばは私たちが教会の中であって教会員としてどのように歩んで行くべきなのか、そのことを教えてくれました。教会のリーダーたちに対して、兄弟姉妹に対して、自分自身がどのように生きて行くのか、そして、教会の中の様々な働きに関して、聖霊の働き、みことばに対して、罪に対して。サタンの攻撃は大変なものです。しかし、私たちはその中であって勝利できるのです。ダビデはこのように言います。詩篇27:1「主は、私の光、私の救い。だれを私は恐れよう。主は、私のいのちのとりで。だれを私はこわがろう。」と、つまり、ダビデが教えていることは、悪いものに打ち勝つ力は私たち自身にあるのではなく神にあるということです。彼はそれを確信しているから神に頼って生きようとしたのです。感謝なことは神が私たちをしっかりと守ってくれるということです。イエスはあなたのために祈ってくださっています、悪から、悪いものから守られるようにと。だから、エペソ6:11から「悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。」と神の武具について記されています。私たちはこのサタンに勝利できるのです。なぜなら、勝利されたイエスが私たちを守ってくれているからです。このサタンの誘惑を見て来たのですが、なぜ、私たちがサタンの誘惑に会うことを神は許されるのかと思われませんか？四つの理由を上げます。

◎なぜ、サタンの存在が許されるのか？

①それによって私たちが自分の弱さに気付くため：様々な誘惑を経験するとき、多くの場合、私たちは失敗してしまいます。そのとき、何と自分は罪深いのか、弱いのかと思いませんか？私たちが自らの弱さに気付くために神はこのようなことを与えてくださるのです。

②神の助けが必要であることを学ぶため：私たちは常に神の助けを必要とするし、その助けはもう与えられています。私たちがその助けをいつもいただきながら生きることを学ぶために神はこのことを良しとされたのです。

③私たちの益のため：神はすべてのことを働かせて益とすると言われました。

④神の栄光のため：私たちが神に頼り続けることによって、神は私たちを通してご自身の力を示して行かれます。

神はこのように罪深い弱い私たちを目的をもって置いておられます。天に召されるのではなく、この敵の真ん中に神は私たちを置いてくださっています。それは私たちがこの神の備えてくださる力によって勝利を得ることによって、この神のすばらしさが人々の前で明らかにされて行くためです。だから、私たちはこの神の力をいただきながら、この力に頼り続けて、歩みをなし続けて行くことが大切なのです。先ほど見たマタイ6:13に「私たちが試みに会わせないで、悪からお救いください。」とありますが、神は私たちを悪から守ってくださいます。

神は私たちに常に勝利を与えてくださいます。ローマ8:37にあるように私たちは「圧倒的な勝利者となるのです。」。最後に、今日のテキスト、ヨハネ17章を見て、16節に「わたしがこの世のものではないように、彼らもこの世のものではありません。」とありますが、このことばは14節にも記されています。

「わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。」と。クリスチャンである皆さん、私たちクリスチャン、私たち信仰者はこのサタンが支配する世に属するものではないのです。私たちはキリストに属する天国民です。もう、私たちはサタンの束縛から解放されて神のものとなったのです。私たちは勝利者として生きて行くことができますのです。そのような祝福を神はイエスを信じた私たちに与えてくれたのです。敵は存在し誘惑をします。私たちは罪深いから失敗をします。でも、私たちが主に信頼して歩むことを学ぶことによって、私たちはこのすばらしい勝利者なる神の力を、栄光を人々に示して行くのです。そのことを覚えて生きることです。勝利者として生きることです。勝利をくださった神のすばらしさを証するために生きることです。それを神はあなたに望んでおられます。このすばらしい神の力を人々の前に明らかにして行きましょう。それはあなたがこの方に信頼をもって歩んで行くことによって可能になります。